

静岡新聞に富士市立高校との新商品の共同開発活動が掲載されました

2021年9月6日、富士市立高校と弊社との新商品の共同開発活動について、静岡新聞の取材を受け、翌日朝刊に掲載されました。

この活動は、2021年4月から富士市立高校の学生2名とともに特殊強化ダンボールを使用した新製品の開発を行うというものです。製品完成までに全10回のカリキュラムを計画し、取材の日は学生のアイデアの1つである簡易更衣室「間仕切レンジャーズ」の1/5スケールのサンプルについて、改善点を話し合いました。更衣室は壁面と床面の周りが凹凸になっていることが特徴で、これによりパーツ同士の連結が可能となっています。静岡新聞記者からの取材に対し、学生からは、更衣室考案の経緯やパーツを連結式にした狙いについて話がありました。

今後は、この日の活動で話し合った改善点をもとに、特殊強化ダンボール製で実物大の試作品を製作する予定です。

強化段ボール新商品開発

大村総業と
富士市立高校生 試作品で実用性検討

富士市の総合物流企業「大村総業」が同市立高の生徒と強化段ボールを使用した新商品の共同開発に取り組んでいる。6日は、5分

模範を基に若手社員と生徒が同校で打ち合わせをした。9月中旬に実物大の試作品を作り、実用性を試す。

昨年春に新商品開発プロジェクトを発足した同社は、強化段ボールの検査用ブースやベッドなどを製品化してきた。製品化を学ぶ教育の場を提供しつつ、高校生のアイデアを新製品開発に役立てる企画への参画を同校に呼び掛けた。総合探究科

3年の長田桃果さんと井上碧人さんの2人が参加し、避難所用簡易更衣室と非対面式デスクを提案した。

長田さん提案の「間仕切レンジャーズ」は避難所の更衣室や授乳室への使用を想定した。ボール部は「着替えたたくても大勢のいる更衣室か、トイレしかなくて困った」との経験を生かした。

高き約2分の長方形の3枚の壁面と正方形の床面で構成。連結部を工夫することで簡単に組み立て可能で、使用しない時の収納性を高める。親子や高齢者介助での利用も考えて拡張もできる。

模型を見た長田さんは「思った通りの出来で驚いた。段ボールが箱以外にも使用できることを発信したい」と製品化に期待した。同社社員は「実物大にし



簡易更衣室の試作品模型を基に話し合いをする長田さん（中央）と井上さん（左端）ら＝富士市の市立高

た時のたわみなども検証したい」と話した。